

## 「狭い門から入れ」

## 1. はじめに

- ・前回に続いて終末についてです。前は終末についての心構えでした。今回は神の国に入れる者、救われる者とは、ということです。同じく心構えです。
- ・私たちは歴史を学校で学ぶ。日本史、世界史など。聖書は全歴史を人の救済史として説明する。その終末論はについて、メノナイト派の終末論の理解は「静かな終末論」と理解されている。

## 2. 本文

## \* 10 ~ 21 節

- ・ 11 節：すると、そこに十八年も病の霊につかれ、腰が曲がって、全く伸ばすことができない女の人がいた。
  - ・安息日での癒し；会堂司は安息日以外でしなさいと言う。
  - ・イエスは彼らに語った。「偽善者たち。」
    - ・あなたがたは安息日にも牛、ろばを飼葉おけからほどいて水を飲ませるのに、十八年間サタンの束縛いる者を解くことはダメというのですか。
    - ・人の子は安息日の主です。ルカ 6 : 5
- ・ 18 節：そこで、イエスはこう言われた。「神の国は何に似ているいるのでしょうか。何にたとえたらよいのでしょうか。」
  - ・からし種。パン種。

## \* 22 ~ 30 節

- ・ 23 節：すると、ある人が言った。「主よ、救われる人は少ないのですか。」イエスは人々に言われた。
- ・ 24 節：「狭い門から入るように努めなさい。あなたがたに言いますが、多くの人が、入ろうとしても入れなくなるからです。」
  - ・ CORE VALUES 4 章：狭い門とは服従である。  
広い門とは、  
単に自分のしたいことをする生き方である。(ダラス・ウィラード)
    - ・新しい戒めを与えます。互いに愛し合いなさい。ヨハネ 13 : 34
- ・ 30 節：いいですか、後にいる者が先になり、先にいる者が後になるのです。
  - ・神は公平である。マタイ 20 : 1 ~ 16、19 : 27 ~ 30
  - ・努力しなさい。

## 3. まとめ

- ・主に従う者にどんな約束があるか。
  - ・神の国に入る。
    - ・テトス 2 : 13, 14
    - ・ II ペテロ 3 : 10 ~ 13